



石打小だより

令和 4年 2月 1日 発行

第 371号



雪が降りしきる朝、児童らが登校してきた。通り過ぎる車両は、登校の列を気遣いながら通過してくれた。子ども見守り隊の皆様は、日々児童らを見守ってくださっている。

令和四年一月十三日朝

「プラス」と「マイナス」を見据えて

校長 高野 克彦

4月から、現石打小学校区の児童は、原則としてスクールバスによる登下校の体制をとることであります。交通事故や不審者、熊の出没 など、いろいろな心配がある現代ですので、ありがたいことには違いないのですが、失うこともあるような気がして、別の心配もよぎります。

毎年、入学式後しばらくたった頃、ご家庭から新入学児童の様子を伺うと「長い道のりを歩いて登下校するためでしょうか、帰宅すると疲れて昼寝をしています。」などのお話があります。「かわいい」「かわいそう」「当然だ」……様々な受け止めがあるのですが、学年が進むにつれて児童らは確実に、たくましさを増していきます。

登下校合わせて数kmの道のりを年間200日以上歩く子もいます。日々歩く積み重ねは、かけがえのないものであると思うのです。たしかに、危険な状況に遭遇することは避けねばなりません。一方、自らの身体を動かし、四季の変化や風を、五感を通して感じとり、体力も感受性も確実に伸ばす時間は、貴重であるとも思うのです。

あと2か月ほどで、子どもたちには大きな変化が否応なく降りかかってくる。「変化」に伴って「得るもの」と「失うもの」が必ずあります。変化によるプラス面だけを見て、マイナス面に目をつぶることは、あってはならないことだと思うのです。これらの両面を冷静に、しっかりと見据え、子どもたちの成長に資する対策を講じていくことが、学校、家庭、地域の役目であります。

様々な思いをぜひ学校にお届けください。子どもたちのために、地域のために、学校はすべてを受け止めるつもりで、窓と扉を開いています。

新しい校歌

統合・開校に向けて、統合石打小学校の校歌の練習が始まっています。現在の校歌は、昭和3(1928)年に作詞作曲されました。当時は、文部省からの認可も必要だったようです。

90余年の時を経て、統合校に贈られた校歌は、令和の新しい風を感じます。

新しい校歌は、3月中に練習する機会を設け、お披露目するのは、開校式、入学式の頃になりそうです。統合校の児童保護者の皆様には、4月中にお聞きいただけるよう調整していますが、今のところ時期は未定です。今しばらくお待ちください。

《2月の主な予定》 省略します

令和4年 4月の主な行事 *現段階の日程です

省略します